



第2章 地域の概況

第1節 地勢と交通

1 地勢

2 交通

第2節 人口の構造等

1 人口構造

2 人口動態

3 患者数の動き

4 医療施設の状況

5 医療従事者の状況

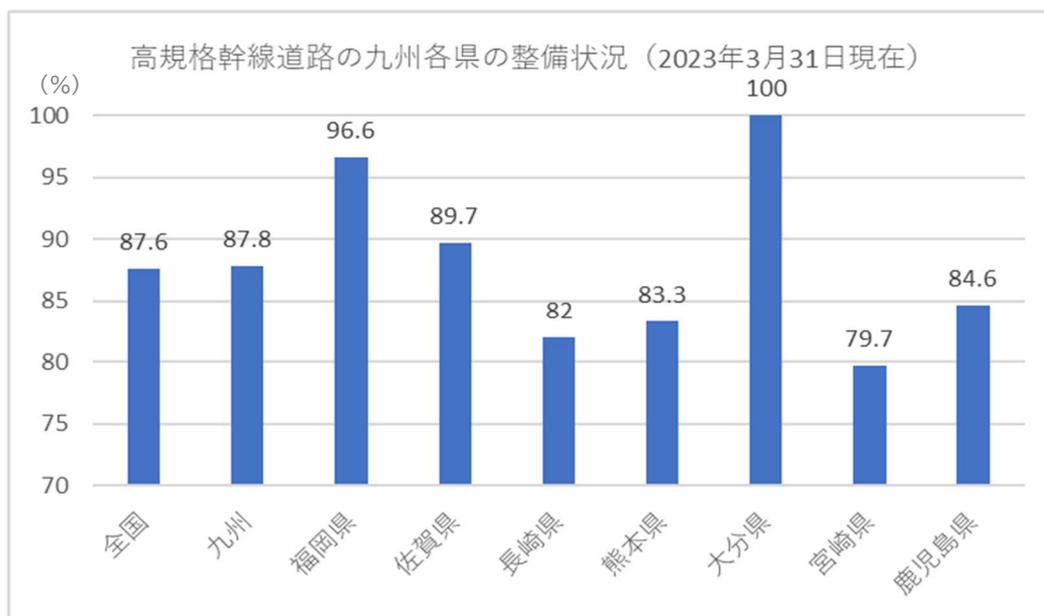
第1節 地勢と交通

1. 地勢

- 本県は九州の東南部に位置し、東西70km、南北160kmにわたる7,735km²で全国第14位の広さを有しています。平地は宮崎平野など海岸部を中心に点在していますが、九州山脈などの山岳地帯が多く、森林面積が76%を占めています。
- これらを水源に大淀川や五ヶ瀬川などの河川が太平洋にそそぎ豊富な水資源をもたらしています。また、平均気温の高さ、日照時間や快晴日数の多さなどの自然環境に恵まれています。

2. 交通

- 本県は人口千人当たりの自家用乗用車保有台数が641台で九州1位と高く、道路交通への依存度が高い状況にあります。
- そのような中、東九州自動車道において、令和5年(2023年)3月に「清武南～日南北郷間」の共用が開始するなど、交通インフラの整備が進んでいます。
- 一方で、県内の高規格幹線道路の令和5年(2023年)3月31日現在での供用率は79.7%(予定延長331.7km に対して開通延長は264.3km)と九州で最も低い状況にあります。



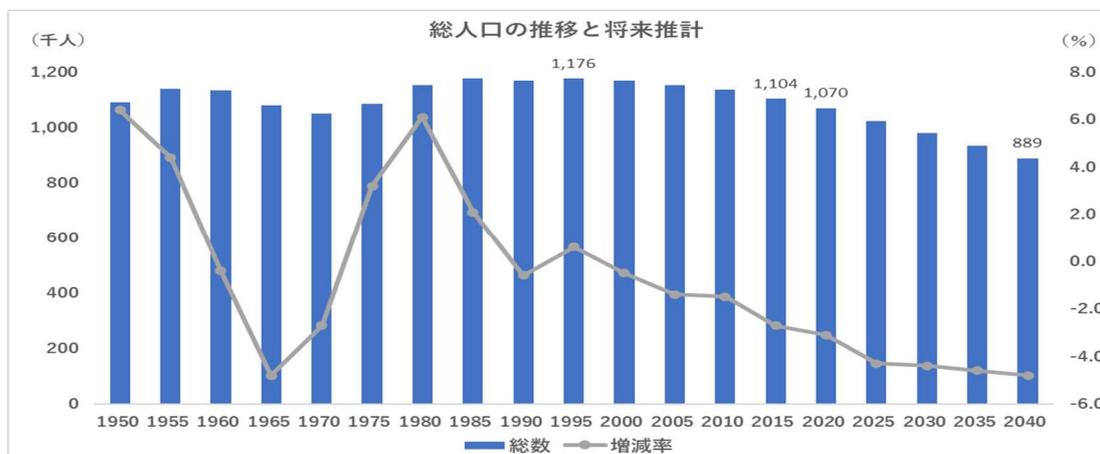
(出典：県高速道対策局より資料提供)

第2節 人口の構造等

1. 人口構造

(1) 総人口

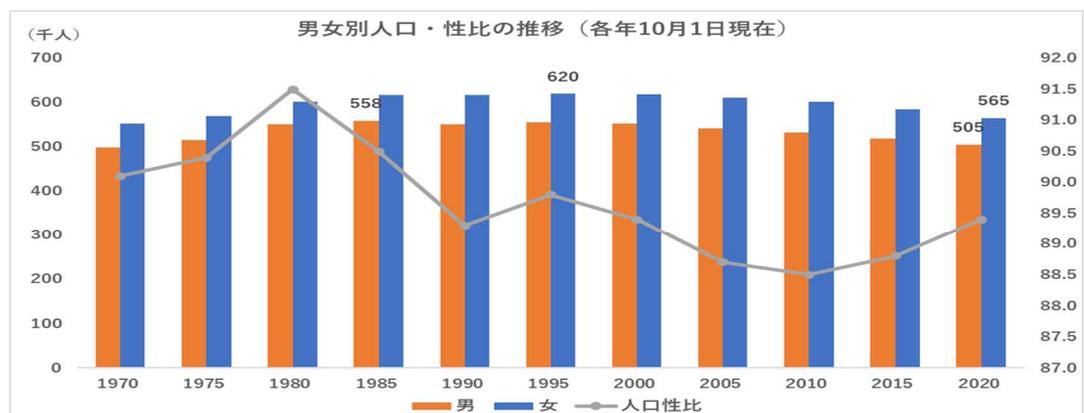
- 令和2年(2020年)国勢調査によると、本県の人口は1,069,576人で、平成27年(2015年)と比べ34,493人(3.1%)減少しています。
- 昭和35年(1960年)に減少に転じた後、昭和45年(1970年)を境に再び増加傾向を示しましたが、その後、平成7年(1995年)以降は減少傾向にあります。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、今後人口はますます減少し続け、令和12年(2030年)には100万人を割り込み、令和22年(2040年)には88万人程度にまで減少する見込みです。



(出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2023年推計)」)

(2) 男女別人口

- 令和2年(2020年)の総人口を男女別にみると、男性 504,763 人、女性 564,813 人となっており、性比(女性を100としたときの男性の数)は89.4 となっています。
- 増減を男女別にみると、男性は平成27年(2015年)から 14,479 人の減、女性は 22,014 人の減となっています。

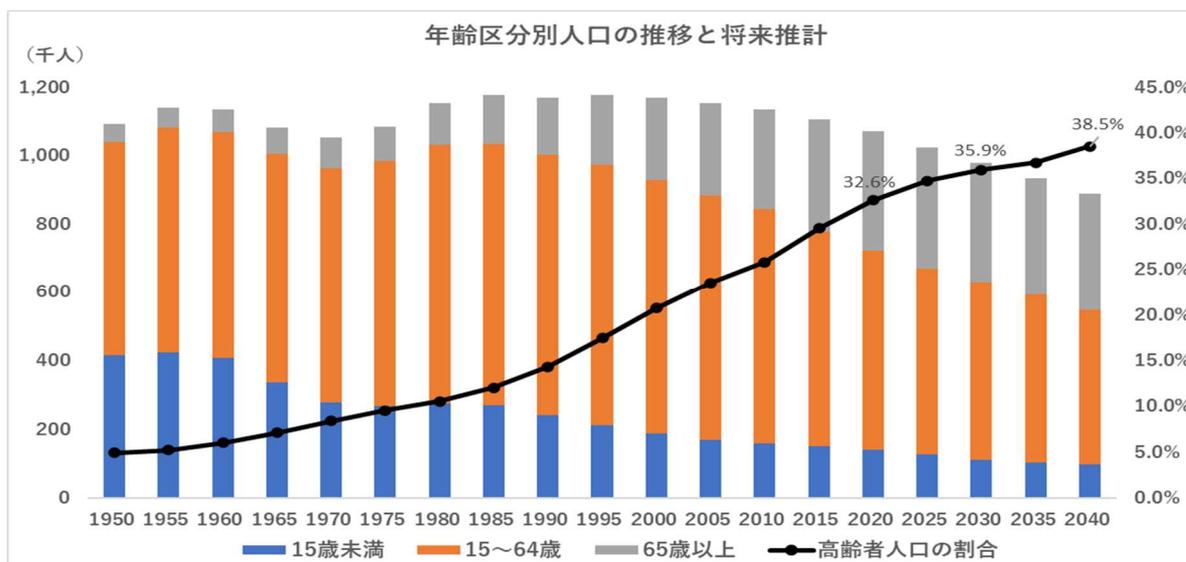


(出典：総務省「国勢調査」、宮崎県統計調査課作成資料)

第2章 地域の概況

(3) 年齢構成

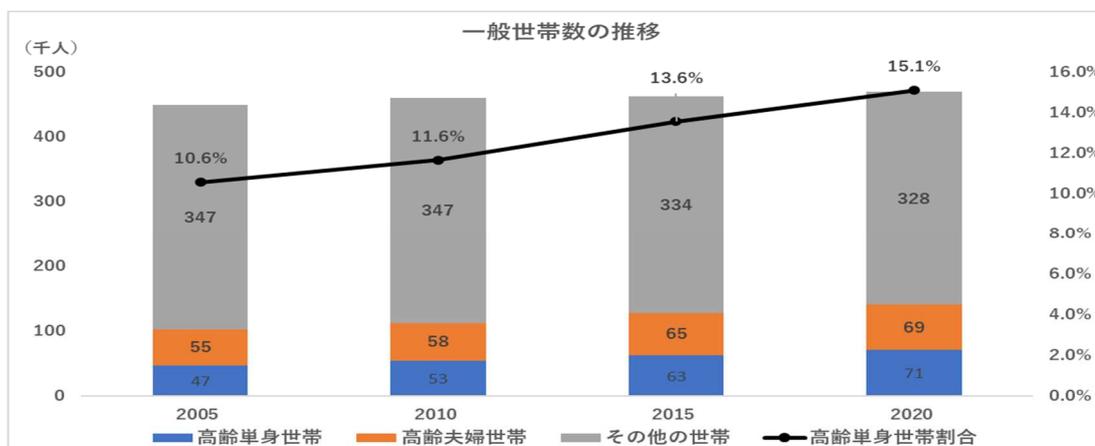
- 令和2年(2020年)国勢調査によると、本県人口を年齢3区分別にみた場合、15歳未満人口は140,291人(総人口の13.1%)、15~64歳人口は580,412人(同54.3%)、65歳以上人口は348,873人(同32.6%)となっており、平成27年(2015年)と比べ、65歳以上人口の割合が3.1%上昇しています。
- 本県では令和12年(2030年)に高齢者人口の割合が35%を超え、令和22年(2040年)には38.5%となることが予測されています。



(出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2023年推計)」)

(4) 世帯構成

- 令和2年(2020年)国勢調査によると、本県の一般世帯数は468,575世帯で、平成27年(2015年)と比べ、7,186世帯増加し、1世帯当たりの世帯人員は2.20人で、平成27年(2015年)と比べ、0.11人減少しています。
- 65歳以上の単身世帯については、一般世帯数の15.1%を占め、年々増加傾向にあります。



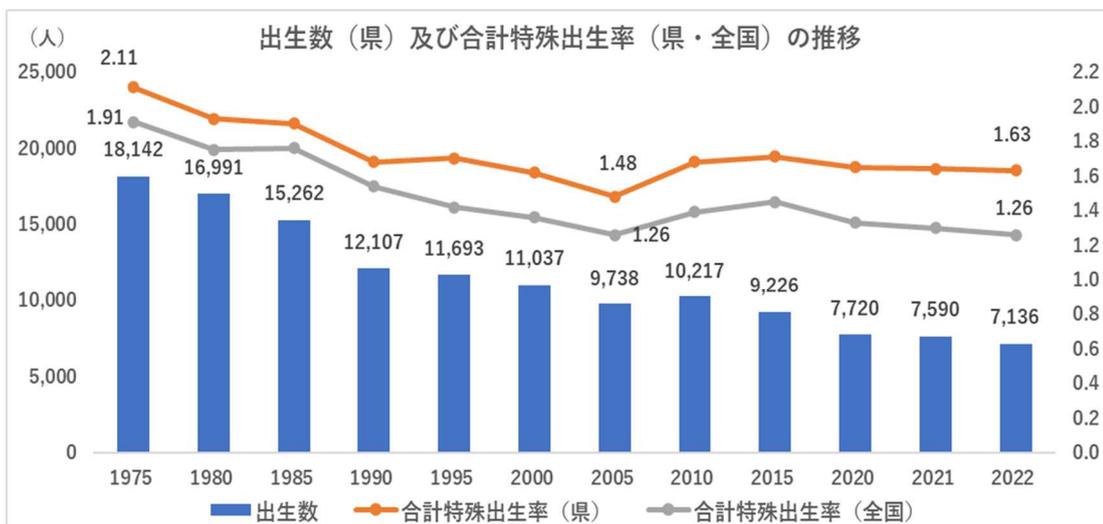
(出典：総務省「国勢調査」)

- ※ 高齢単身世帯とは、65歳以上の者一人のみの一般世帯のこと。
- 高齢夫婦世帯とは、夫が65歳以上、妻が60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯のこと。

2. 人口動態

(1) 出生

- 出生数は昭和50年(1975年)以降減少傾向が続いています。令和4年(2022年)の出生数は前年より454人減少し、7,136人となりました。
- 令和4年(2022年)の本県の合計特殊出生率は1.63(全国平均1.26)と全国的には高い水準を維持しています。

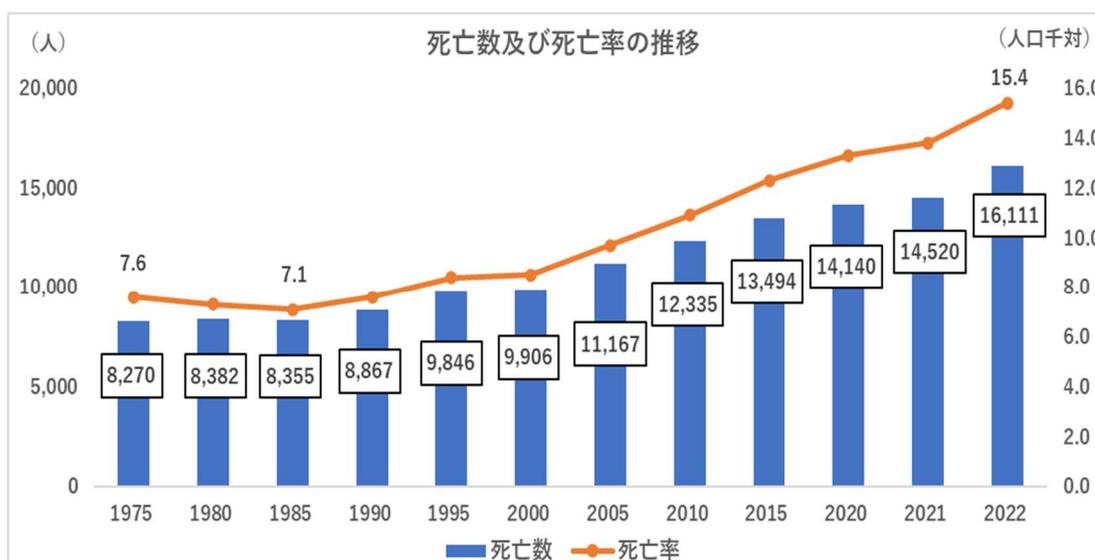


(出典：厚生労働省「人口動態調査」)

(2) 死亡

① 死亡数及び死亡率

- 本県の死亡数及び死亡率は、高齢化等の影響により、ともに増加傾向にあり、令和4年(2022年)には死亡数 16,111 人、死亡率15.4といずれも過去最高になりました。



(出典：厚生労働省「人口動態調査」)

第2章 地域の概況

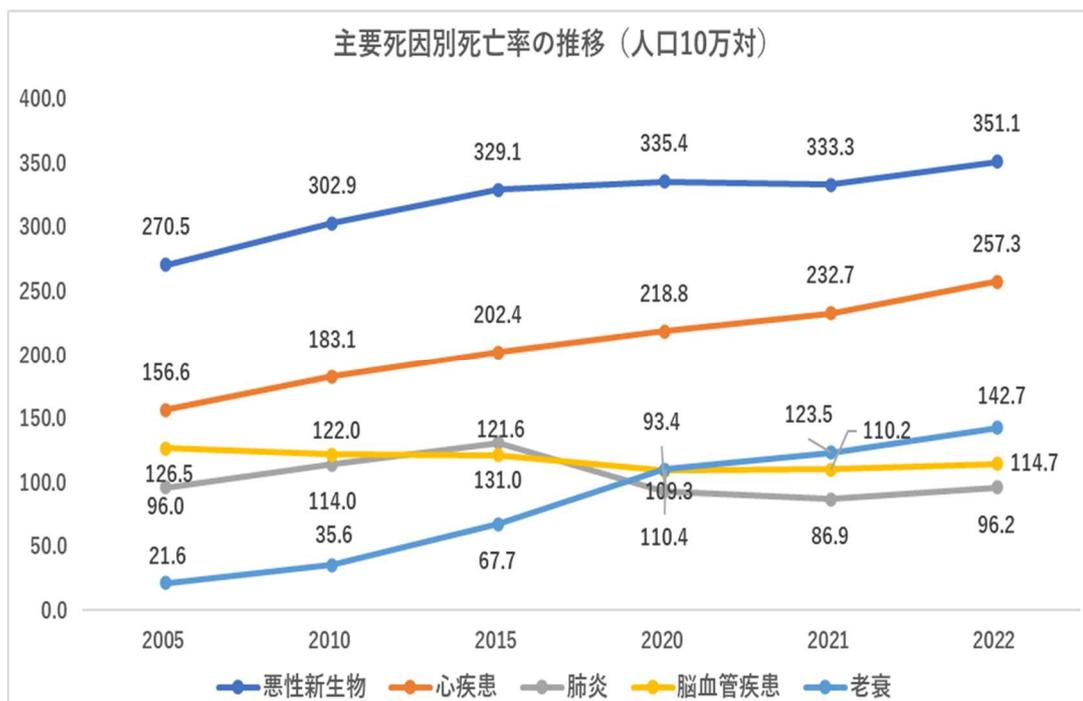
② 主要死因

- 本県の令和4年(2022年)の主要死因は、1位が悪性新生物、2位が心疾患、3位が老衰となっており、上位9つまでは全国と同様となっています。
- 近年、悪性新生物、心疾患、老衰が増加傾向にあり、令和4年(2022年)の死亡率は、いずれも過去最高となっています。

令和4年(2022年)の主要死因別死亡数及び死亡率(人口10万対)

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
宮 崎 県	死 因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	誤嚥性肺炎	不慮の事故	腎不全	アルツハイマー病	間質性肺炎
	死亡数	3,666	2,686	1,490	1,197	1,004	508	484	353	326	249
	死亡率	351.1	257.3	142.7	114.7	96.2	48.7	46.4	33.8	31.2	23.9
	構成割合	22.8%	16.7%	9.2%	7.4%	6.2%	3.2%	3.0%	2.2%	2.0%	1.5%
全 国	死 因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	誤嚥性肺炎	不慮の事故	腎不全	アルツハイマー病	血管性及び詳細不明の認知症
	死亡数	385,797	232,964	179,529	107,481	74,013	56,069	43,420	30,739	24,860	24,360
	死亡率	316.1	190.9	147.1	88.1	60.7	45.9	35.6	33.8	20.4	20.0
	構成割合	24.6%	14.8%	11.4%	6.9%	4.7%	3.6%	2.8%	2.0%	1.6%	1.6%

(出典：厚生労働省「人口動態調査」)



(出典：厚生労働省「人口動態調査」)

第2章 地域の概況

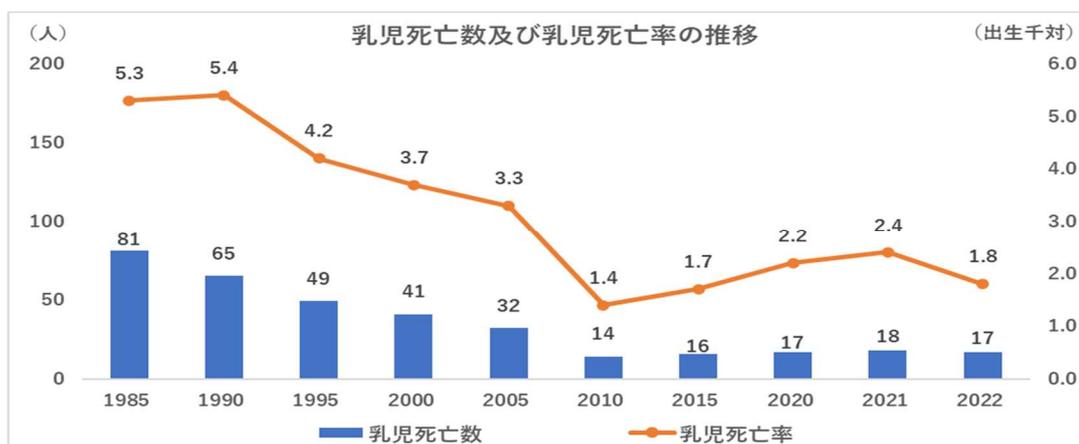
③ 乳児死亡及び周産期死亡

- 令和4年(2022年)の本県の乳児死亡率は、国平均と同数となっています。
- 周産期死亡率は、近年全国平均を下回って推移しており、令和4年(2022年)も全国平均を下回っています。

乳児死亡率及び周産期死亡率の推移（宮崎県及び全国）

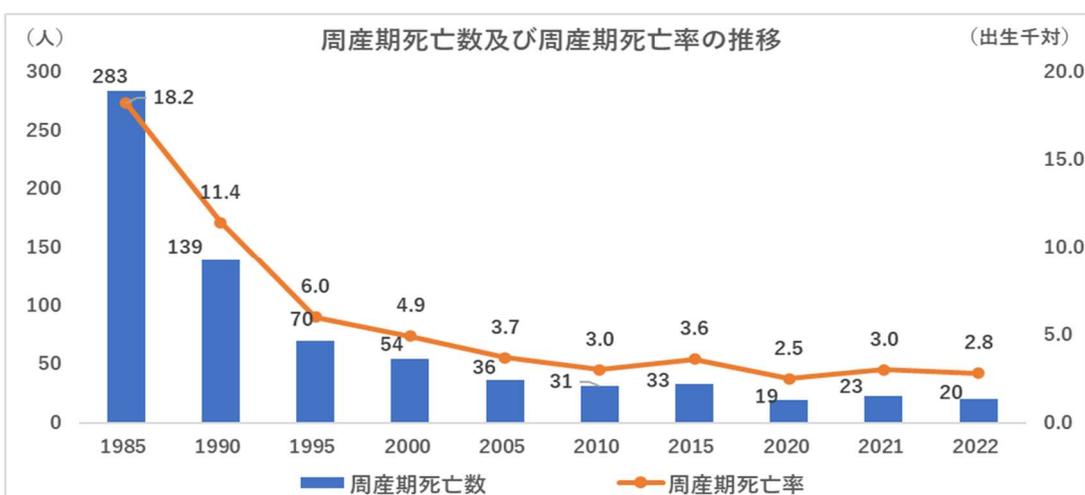
		1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2021年	2022年
乳児死亡率 (出生千対)	宮崎県	5.3	5.4	4.2	3.7	3.3	1.4	1.7	2.2	2.4	1.8
	全国	5.5	4.6	4.3	3.2	2.8	2.3	1.9	1.8	1.7	1.8
周産期死亡率 (出産千対)	宮崎県	18.2	11.4	6.0	4.9	3.7	3.0	3.6	2.5	3.0	2.8
	全国	15.4	11.1	7.0	5.8	4.8	4.2	3.7	3.2	3.4	3.3

(出典：厚生労働省「人口動態調査」)



(出典：厚生労働省「人口動態調査」)

※ 乳児死亡とは、生後1年未満の死亡のこと



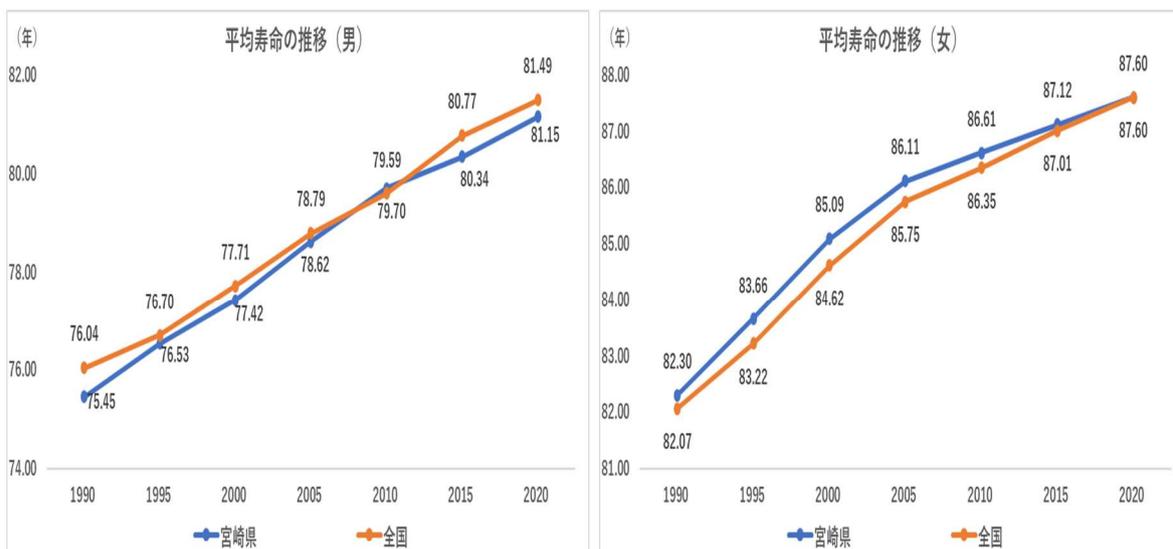
(出典：厚生労働省「人口動態調査」)

※ 周産期死亡とは、妊娠満22週(154日)以後の死産に早期新生児死亡(生後1週間未満の死亡)を加えたもの。

第2章 地域の概況

④ 平均寿命

- 平均寿命は年々延びており、令和2年(2020年)では男性が81.15年、女性が87.60年となっています。



(出典：厚生労働省「完全生命表」及び「都道府県別生命表」)

3. 患者数の動き

(1) 推計患者数の推移等

- 本県の令和2年(2020年)の推計患者数は、平成29年(2017年)と比べ、入院が減少し外来が増加しています。
- 施設区分別患者数では、入院患者総数(14,700人)のうち病院が95.2%(14,000人)、外来患者総数(66,600人)のうち一般診療所が62.8%(41,800人)、病院が21.0%(14,000人)を占めています。

推計患者数の推移

(単位：人)

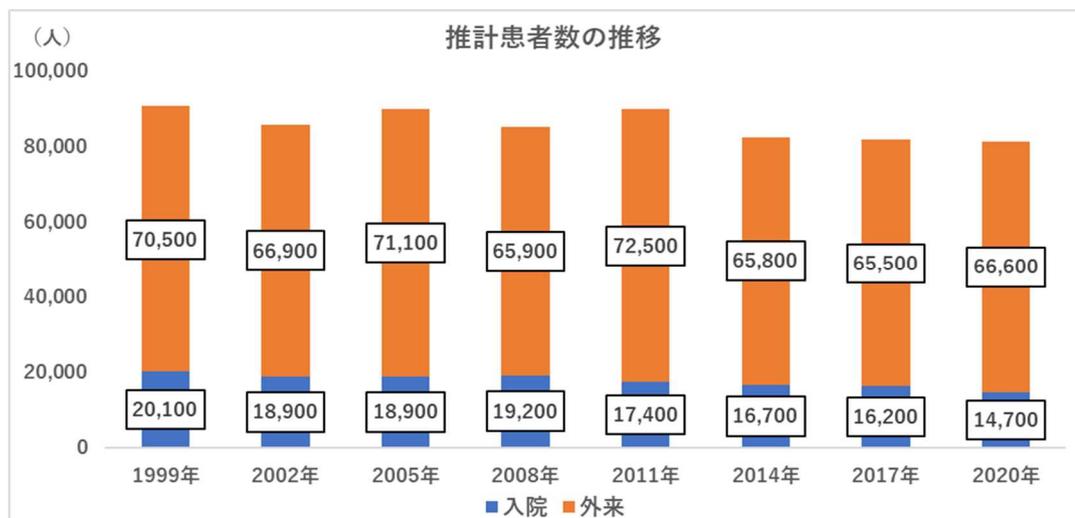
	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
1999年	20,100	17,500	2,600	70,500	20,800	39,000	10,600
2002年	18,900	16,700	2,200	66,900	18,400	37,600	10,900
2005年	18,900	16,500	2,500	71,100	16,100	43,100	11,900
2008年	19,200	17,100	2,100	65,900	16,600	38,700	10,500
2011年	17,400	16,000	1,500	72,500	15,800	44,400	12,300
2014年	16,700	15,400	1,200	65,800	14,400	40,700	10,700
2017年	16,200	15,100	1,100	65,500	15,800	39,900	9,800
2020年	14,700	14,000	700	66,600	14,000	41,800	10,800

(出典：厚生労働省「患者調査」)

※ 推計患者数であるため、各区分別推計患者数の合計は総計と一致しない。

※ 推計患者数：特定の日に医療施設で受療した患者数の推計

第2章 地域の概況



- 年齢階級別患者数では、入院患者総数(14,700人)のうち65歳以上の患者は11,100人で75.5%、外来患者総数(66,600人)のうち65歳以上の患者は36,100人で54.2%を占めています。

年齢階級別推計患者数 令和2年(2020年)

(単位：人)

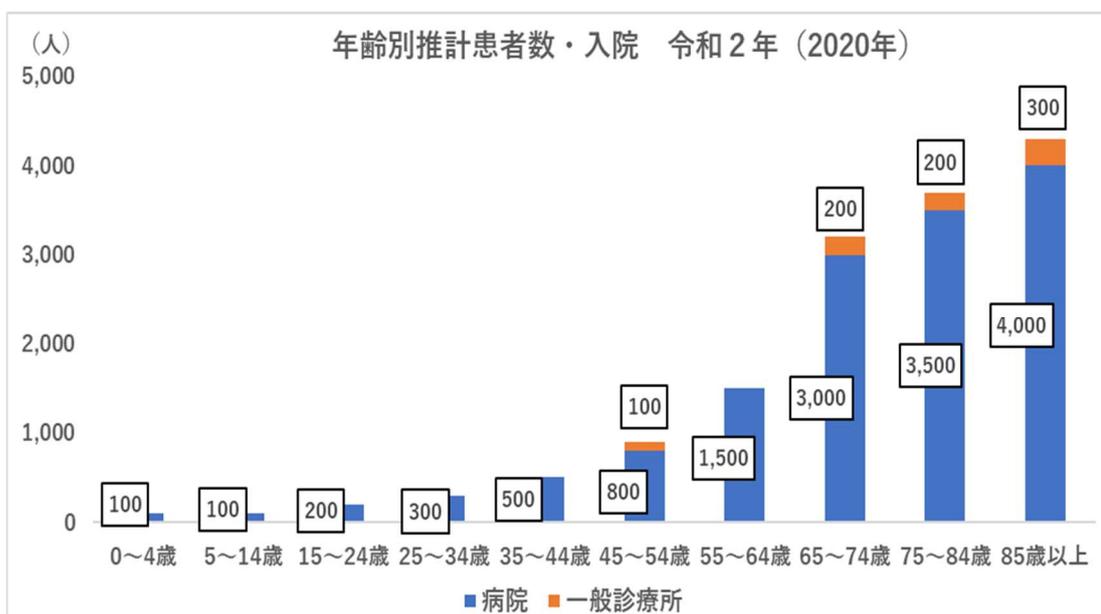
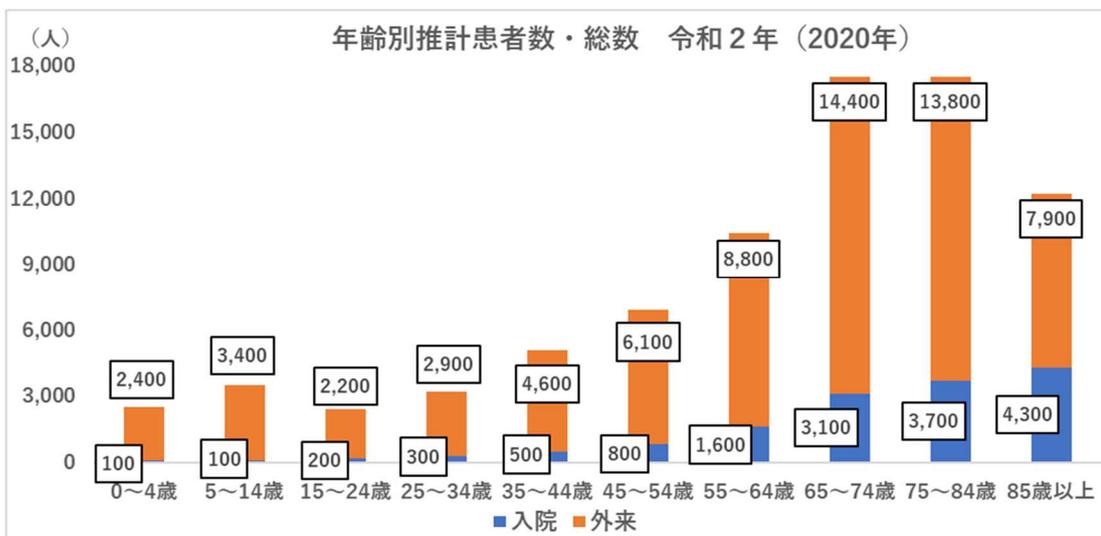
	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総数	14,700	14,000	700	66,600	14,000	41,800	10,800
【性別】							
男	6,700	6,400	300	28,200	6,300	17,600	4,300
女	8,000	7,600	400	38,400	7,700	24,200	6,400
【年齢別】							
0～4歳	100	100	-	2,400	300	2,100	100
5～14歳	100	100	-	3,400	400	2,500	500
15～24歳	200	200	-	2,200	400	1,400	400
25～34歳	300	300	0	2,900	500	1,600	800
35～44歳	500	500	0	4,600	900	2,600	1,000
45～54歳	800	800	100	6,100	1,300	3,500	1,300
55～64歳	1,600	1,500	0	8,800	1,900	4,900	2,000
65～74歳	3,100	3,000	200	14,400	3,600	8,700	2,200
75～84歳	3,700	3,500	200	13,800	3,100	8,800	1,900
85歳以上	4,300	4,000	300	7,900	1,700	5,600	600
不詳	0	0	-	0	0	0	-
【再掲】							
65歳以上	11,100	10,500	600	36,100	8,400	23,100	4,700
75歳以上	7,900	7,500	400	21,700	4,800	14,400	2,500

(出典：厚生労働省「患者調査」)

※ 推計患者数であるため、各区分別推計患者数の合計は総計と一致しない。

※ 推計患者数：特定の日に医療施設で受療した患者数の推計

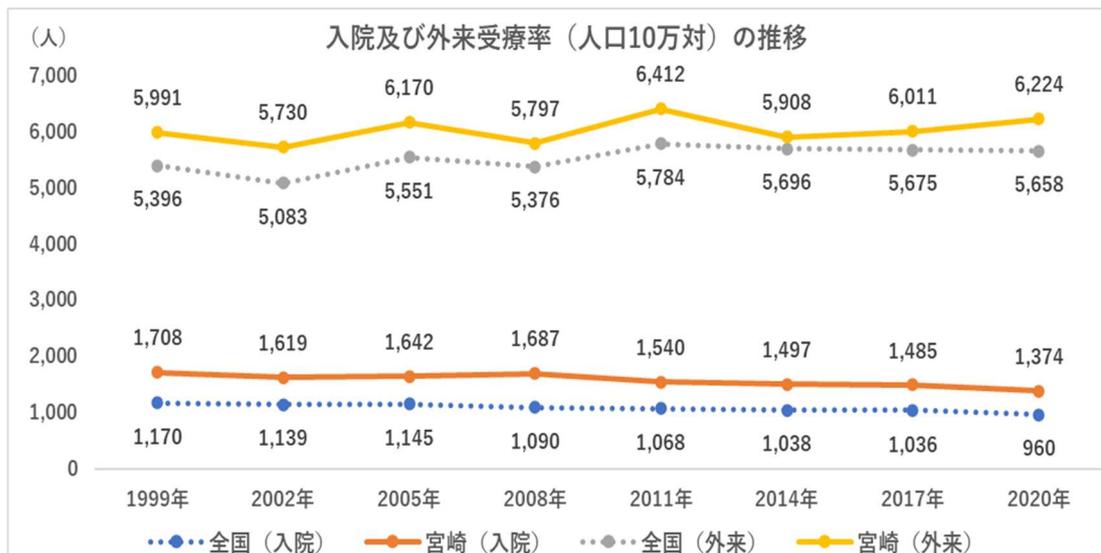
第2章 地域の概況



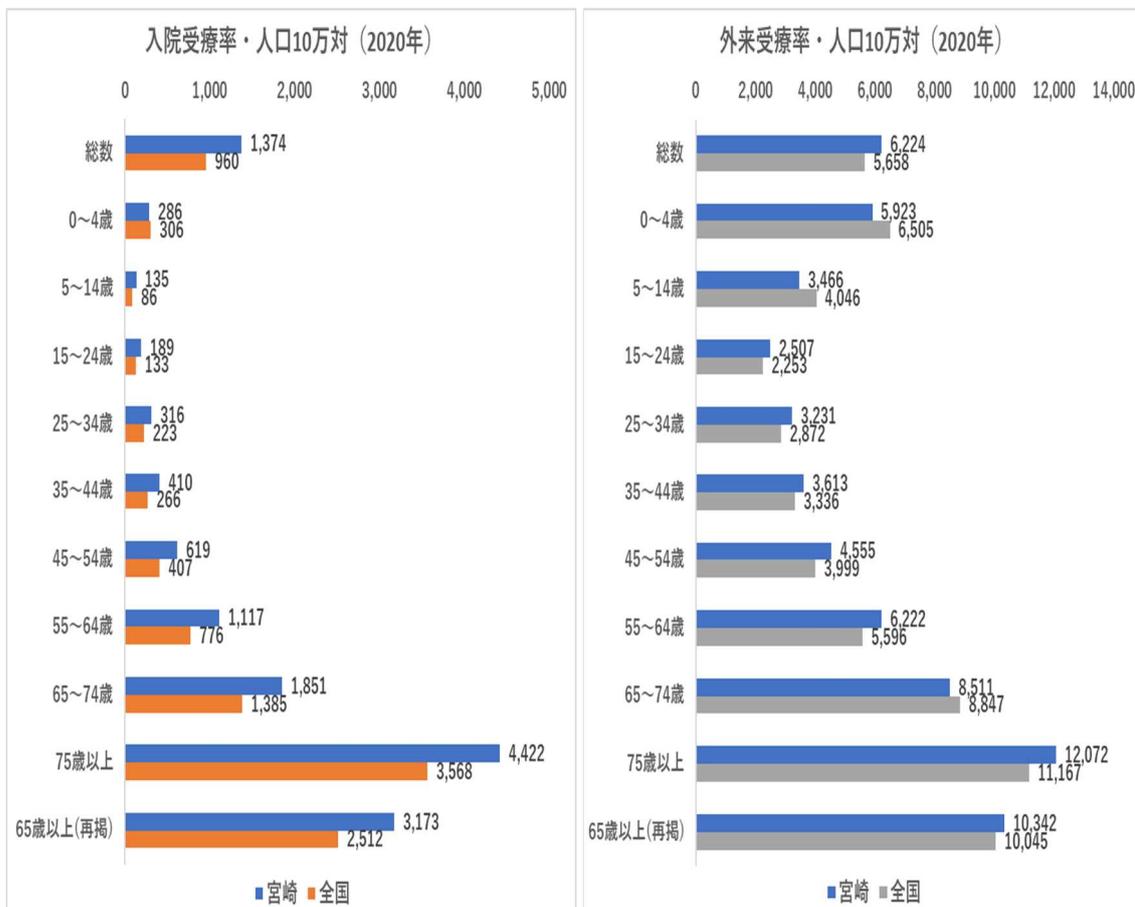
第2章 地域の概況

(2) 受療率の推移等

- 本県の入院受療率は近年減少傾向にあります。依然として全国平均を上回っており、特に、75歳以上の入院受療率が高い傾向にあります。
- 外来受療率は依然として全国平均を上回って推移しています。



（出典：厚生労働省「患者調査」）

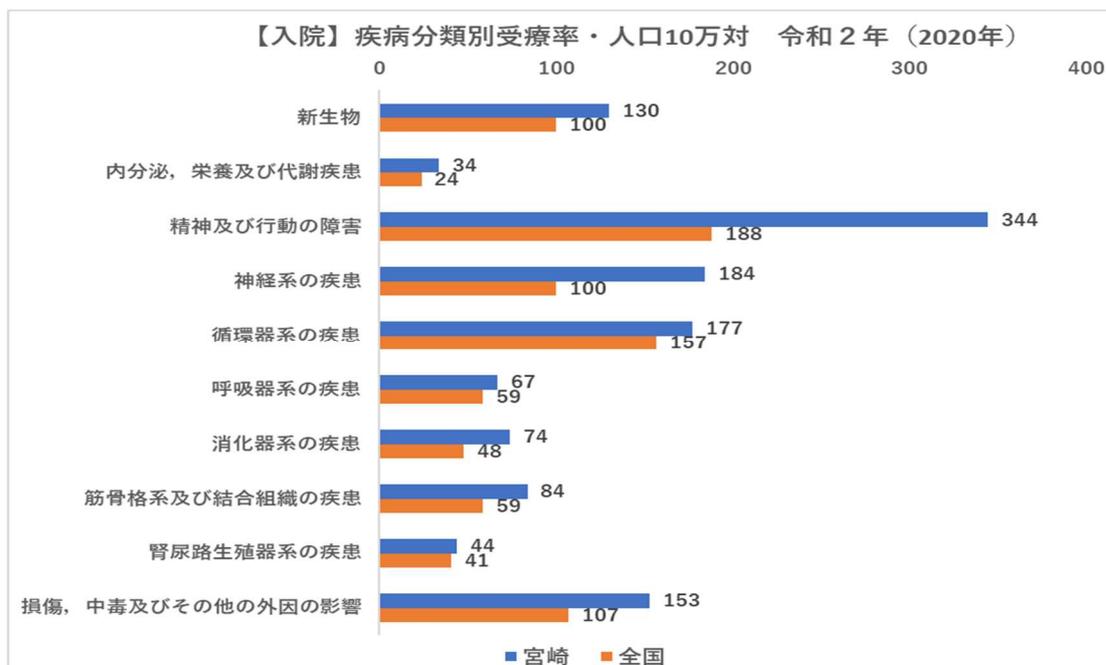


（出典：厚生労働省「患者調査」）

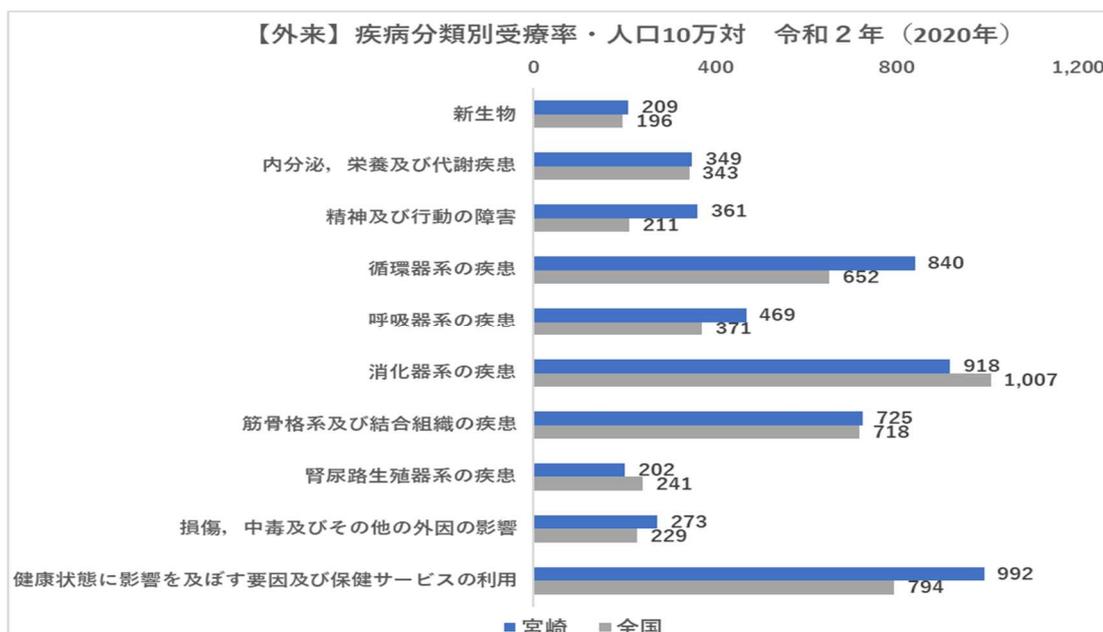
第2章 地域の概況

(3) 疾病分類別受療率

- 疾病分類別の受療率をみると、入院では統合失調症等の「精神及び行動の障害」、脳梗塞等の「神経系の疾患」が高くなっています。
- 外来では各種検査観察等の「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」、歯周疾患や胃炎等の「消化器系の疾患」が高くなっています。



（出典：厚生労働省「患者調査」）



（出典：厚生労働省「患者調査」）

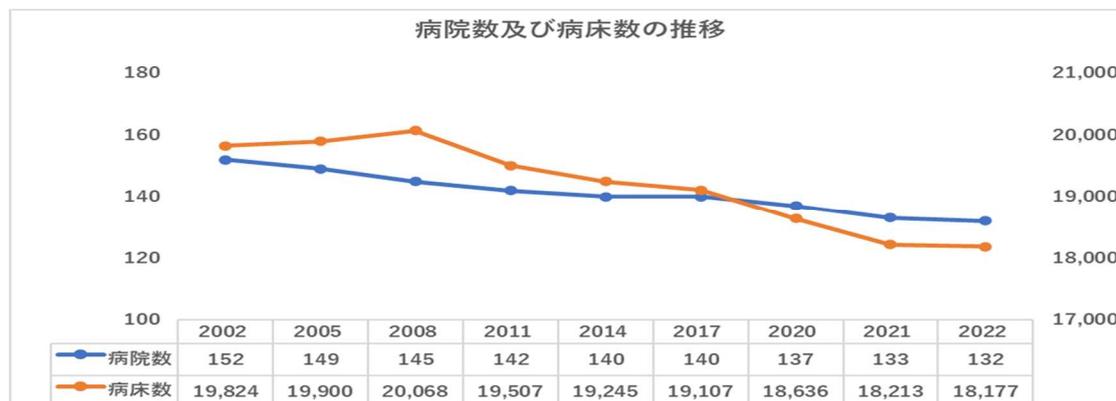
4. 医療施設の状況

(1) 病院

- 近年、本県の人口10万対病院数及び病床数は、いずれも減少傾向となっています。
- 本県の病院数及び病床数についても、いずれも減少傾向となっています。



(出典：厚生労働省「医療施設調査」)



(出典：厚生労働省「医療施設調査」)

- 本県の病院の全病床における平均在院日数は、全国平均を上回っており、特に精神病床では全国平均を94.9日上回っています。

病院の病床種類別 平均在院日数の推移

(単位：日)

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
宮崎	全病床	36.1	35.7	35.7	36.4	35.8	35.5
	精神病床	331.0	336.7	339.8	351.3	354.1	371.6
	感染症病床	-	-	-	10.7	10.7	10.4
	結核病床	34.7	43.8	36.4	54.8	62.6	50.7
	療養病床	109.3	109.3	110.0	113.2	103.8	101.2
	一般病床	17.6	17.5	17.4	17.4	17.1	17.2
全国	全病床	28.2	27.8	27.3	28.3	27.5	27.3
	精神病床	267.7	265.8	265.8	277.0	275.1	276.7
	感染症病床	8.0	8.3	8.5	9.8	10.1	10.5
	結核病床	66.5	65.6	64.6	57.2	51.3	44.5
	療養病床	146.3	141.5	135.9	135.5	131.1	126.5
	一般病床	16.2	16.1	16.0	16.5	16.1	16.2

(出典：厚生労働省「病院報告」)

第2章 地域の概況

- 本県の病院の全病床における病床利用率は75.1%で、全国平均(75.3%)を下回っています。
- 精神病床のみ全国平均を上回っている状況です。

病院の病床種類別 病床利用率の推移

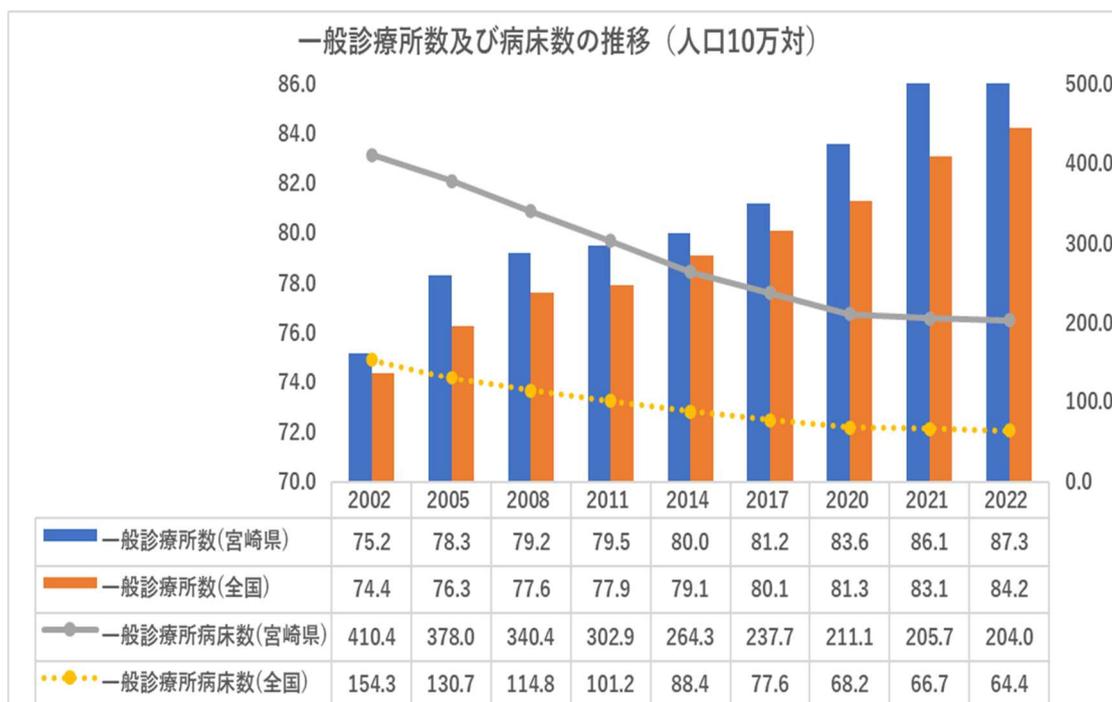
(単位：%)

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
宮崎	全病床	78.9	78.8	79.4	76.6	75.9	75.1
	精神病床	88.0	87.1	87.7	87.1	86.4	85.3
	感染症病床	-	-	-	28.4	84.8	195.6
	結核病床	23.3	22.2	17.4	20.0	13.2	13.5
	療養病床	85.2	85.5	85.4	83.0	82.5	81.5
	一般病床	71.4	71.7	72.4	68.1	67.0	66.3
全国	全病床	80.4	80.5	80.5	77.0	76.1	75.3
	精神病床	86.1	86.1	85.9	84.8	83.6	82.3
	感染症病床	3.3	3.6	3.8	114.7	343.8	571.2
	結核病床	33.6	33.3	33.2	31.5	28.9	27.4
	療養病床	88.0	87.7	87.3	85.7	85.8	84.7
	一般病床	75.9	76.2	76.5	71.3	69.8	69.0

(出典：厚生労働省「病院報告」)

(2) 一般診療所

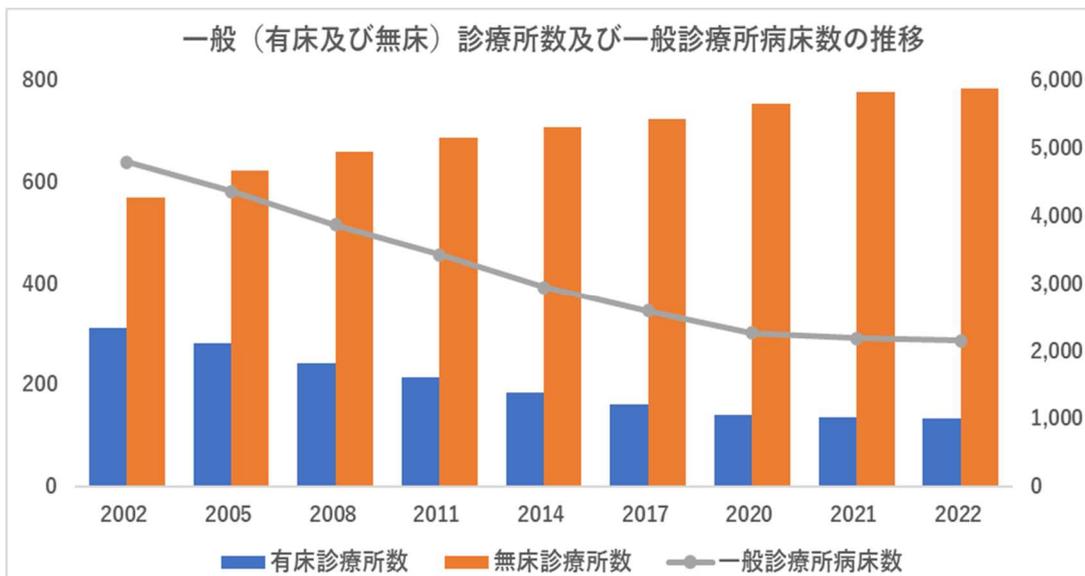
- 人口10万対一般診療所数は、本県及び全国ともに近年増加傾向にあります。
- 一方で、人口10万対一般診療所病床数は、本県及び全国ともに近年減少傾向にあります。



(出典：厚生労働省「医療施設調査」)

第2章 地域の概況

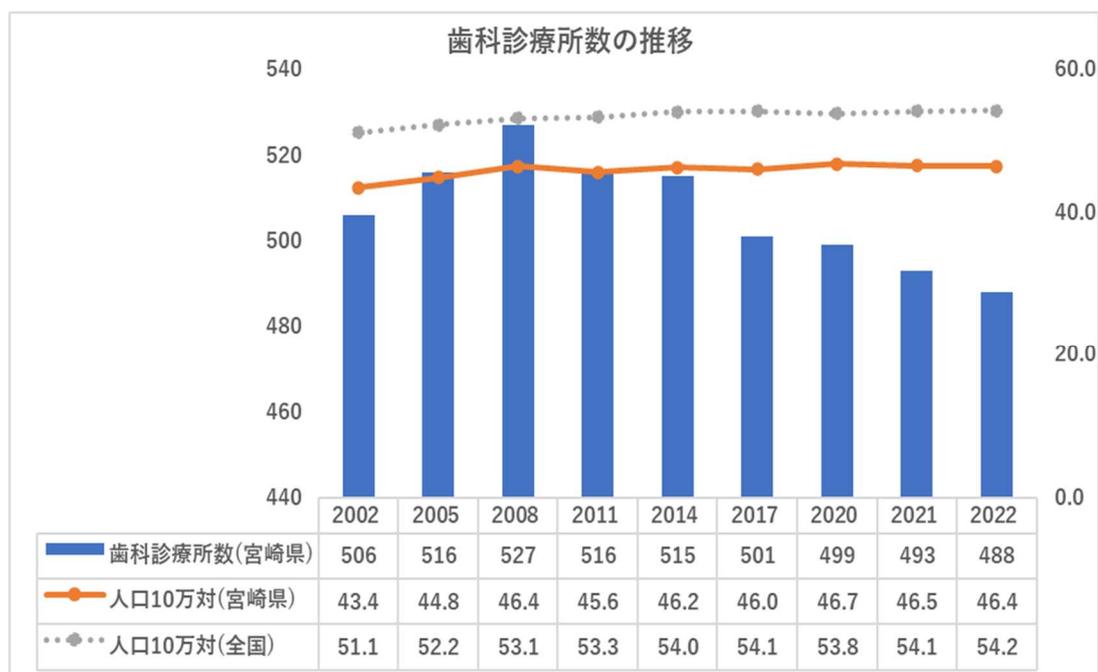
- 有床診療所が減少する一方で無床診療所が増加する傾向が見られます。
- 一般診療所病床数も平成10年(1998年)以降、一貫して減少しています。



(出典：厚生労働省「医療施設調査」)

(3) 歯科診療所

- 本県の歯科診療所数は、平成20年(2008年)をピークに減少傾向にあります。
- 本県の人口10万対歯科診療所数は、全国平均を下回っています。



(出典：厚生労働省「医療施設調査」)

5. 医療従事者の状況

(1) 医師

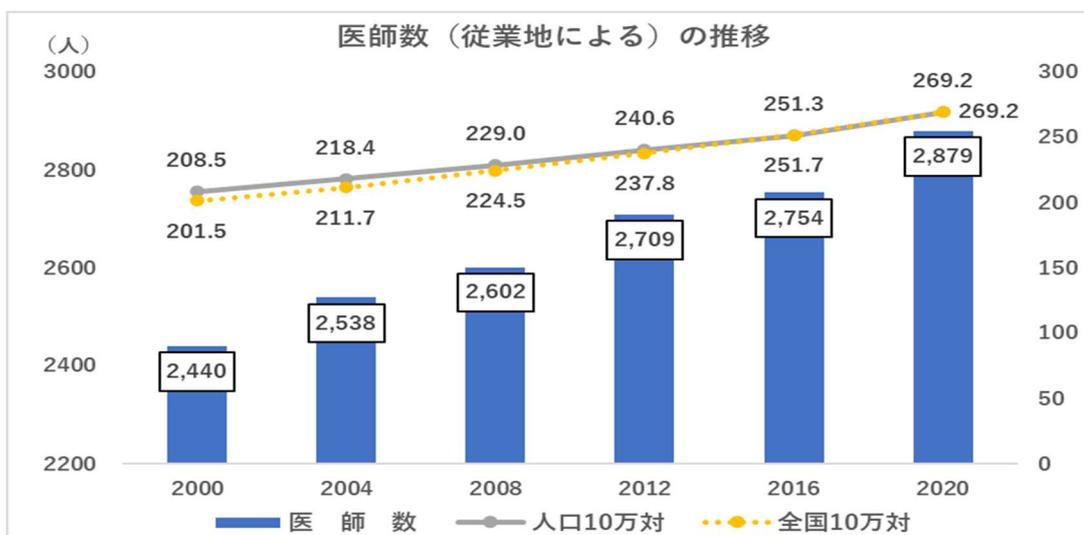
- 医師数は、令和2年(2020年)12月末現在で2,879人となっており、平成12年(2000年)の2,440人と比較すると439人増加しています。
- 令和2年(2020年)の人口10万人当たりの医師数は、269.2人で、平成12年(2000年)の208.5人と比較すると60.7人増加しており、全国平均と同数となっています。
- 令和2年(2020年)の施設別の医師数は、平成22年(2010年)と比較すると、病院開設者勤務者208人、診療所開設者勤務者が4人増加しています。
- 令和2年(2020年)の年齢階級別の医師数は、平成22年(2010年)と比較すると、30歳代及び40歳代は減少しましたが、そのほかの年齢では増加しており、平均年齢は1.7歳高くなっています。
- 令和2年(2020年)の二次医療圏ごとの医師数は、宮崎東諸県医療圏に1,644人と県内の医師数の57.1%が集中しています。
- 令和2(2020年)の人口10万人当たりの医師数は、全国平均の269.2人を上回っているのは宮崎東諸県医療圏の385.3人のみで、他の圏域は全国平均を下回っています。県内格差が、宮崎東諸県医療圏は、西都児湯医療圏の2.91倍となっています。

医師数（従業地による）の推移

(単位：人)

年次 区分	2000	2004	2008	2012	2016	2020	
							対2000数
医師数	2,440	2,538	2,602	2,709	2,754	2,879	439
人口10万対	208.5	218.4	229.0	240.6	251.3	269.2	60.7
全国10万対	201.5	211.7	224.5	237.8	251.7	269.2	67.7

(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、人口は各年10月1日現在)



(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、人口は各年10月1日現在)

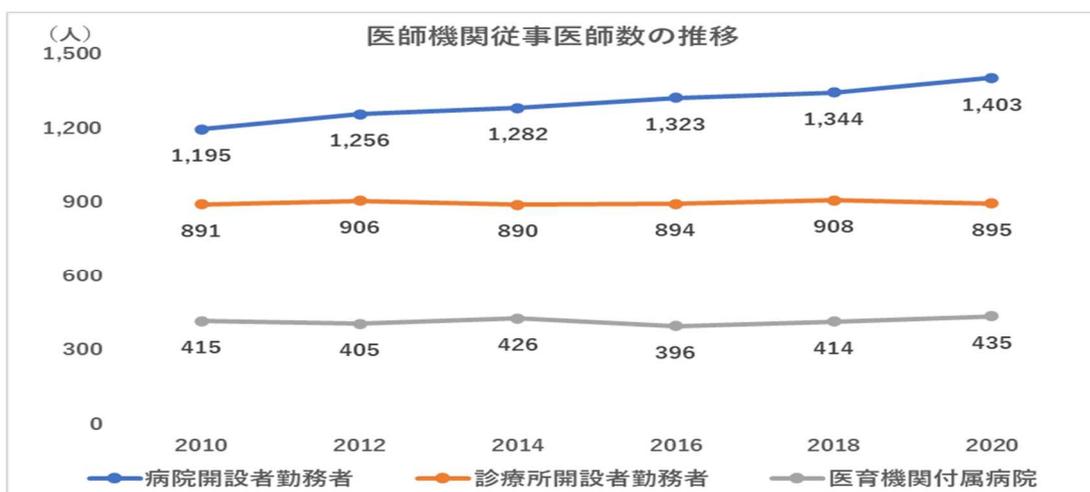
第2章 地域の概況

従事する施設別医師数の推移

(単位：人)

年次		2010	2012	2014	2016	2018	2020		
区分								対2010数	
従事 医療 機関 医師 数	病院開設者勤務者	1,195	1,256	1,282	1,323	1,344	1,403	208	
	診療所開設者勤務者	891	906	890	894	908	895	4	
	医育機関付属病院	415	405	426	396	414	435	20	
	小計	2,501	2,567	2,598	2,613	2,666	2,733	232	
教育研究機関勤務者		30	36	30	30	28	33	3	
行政保健衛生業務従事者		40	36	34	39	40	40	0	
その他の者		82	70	68	72	76	73	-9	
うち無職		45	25	21	18	27	26	-19	
総数		2,653	2,709	2,730	2,754	2,810	2,879	226	

(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)



(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

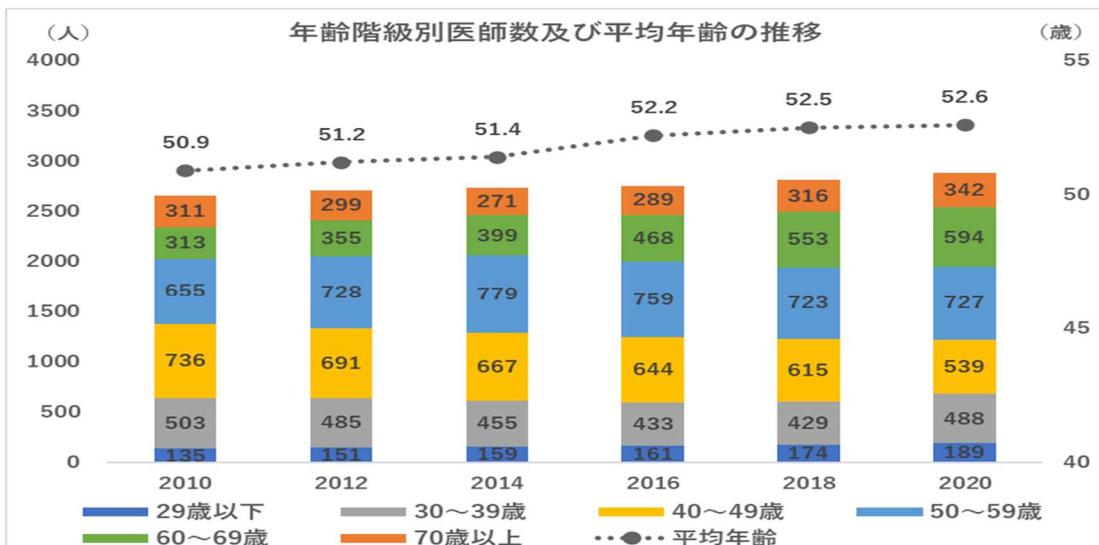
年齢階級別医師数及び平均年齢の推移

(単位：人、歳)

年次	2010	2012	2014	2016	2018	2020		
区分							対2000数	
29歳以下	135	151	159	161	174	189	54	
30～39歳	503	485	455	433	429	488	-15	
40～49歳	736	691	667	644	615	539	-197	
50～59歳	655	728	779	759	723	727	72	
60～69歳	313	355	399	468	553	594	281	
70歳以上	311	299	271	289	316	342	31	
医師数	2,653	2,709	2,730	2,754	2,810	2,879	226	
平均年齢	50.9	51.2	51.4	52.2	52.5	52.6	1.7	

(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

第2章 地域の概況



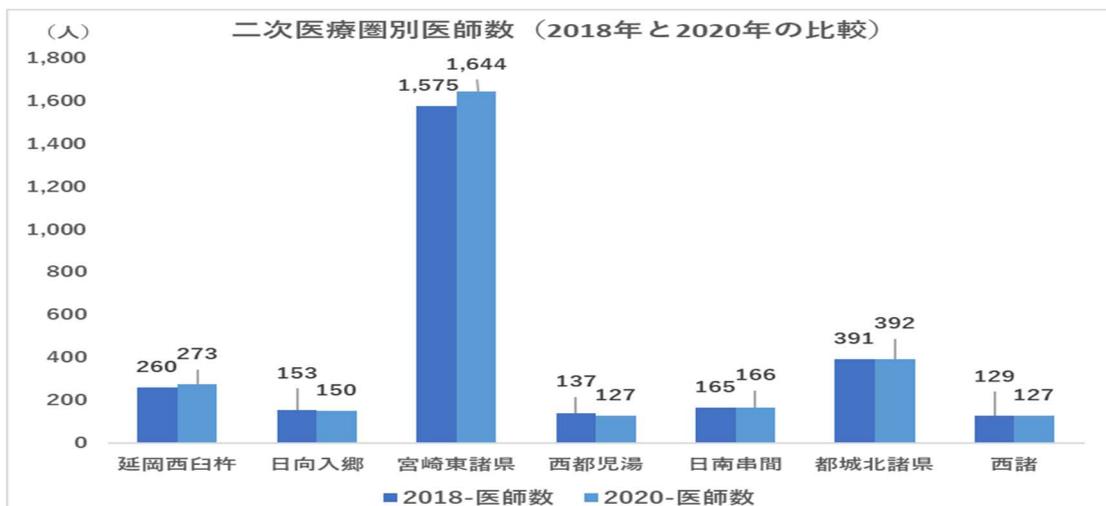
(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

医療圏別医師数 (2018年と2020年の比較)

(単位：人、%)

年次 区分	2018			2020		
	総数	10万対	構成比	総数	10万対	構成比
延岡西臼杵	260	185.3	9.3%	273	199.1	9.5%
日向入郷	153	175.0	5.4%	150	174.8	5.2%
宮崎東諸県	1,575	370.8	56.0%	1,644	385.3	57.1%
西都児湯	137	139.1	4.9%	127	132.2	4.4%
日南串間	165	237.2	5.9%	166	245.3	5.8%
都城北諸県	391	208.7	13.9%	392	210.5	13.6%
西諸	129	179.4	4.6%	127	181.6	4.4%
本県	2,810	259.9	100.0%	2,879	269.2	100.0%
県内格差		2.67			2.91	
全国	327,210	258.8		339,623	269.2	

(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、人口は各年10月1日現在)



(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、人口は各年10月1日現在)

第2章 地域の概況

(2) 歯科医師

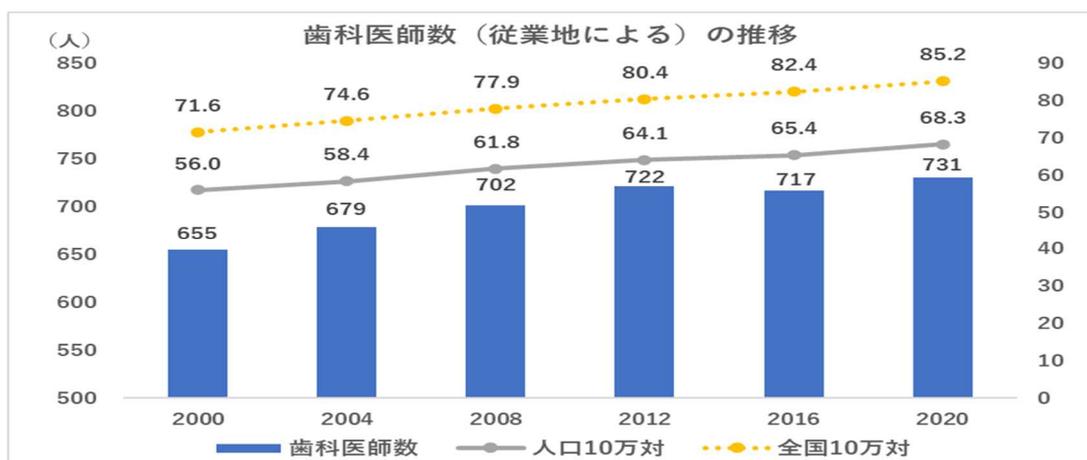
- 歯科医師数は増加しており、令和2年(2020年)12月末現在では731人で、平成12年(2000年)時の655人と比較し、76人増加しています。
- 人口10万人当たりの歯科医師数は、令和2年(2020年)12月末現在では68.3人で、平成12年(2000年)時の56.0人と比較して12.3人増加していますが、全国平均の85.2人を下回っています。

歯科医師数（従業地による）の推移

(単位：人)

区分	年次	2000	2004	2008	2012	2016	2020	
								対2000数
歯科医師数		655	679	702	722	717	731	76
人口10万対		56.0	58.4	61.8	64.1	65.4	68.3	12.3
全国10万対		71.6	74.6	77.9	80.4	82.4	85.2	13.6

(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)



(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

(3) 薬剤師

- 薬剤師数は増加しており、令和2年(2020年)12月末現在では2,272人で、平成12年(2000年)時の1,359人と比較し、913人増加しています。
- 人口10万人当たりの薬剤師数は、令和2年(2020年)12月末現在では212.4人で、平成12年(2000年)時の116.2人と比較して96.2人増加していますが、全国平均の255.2人を下回っています。

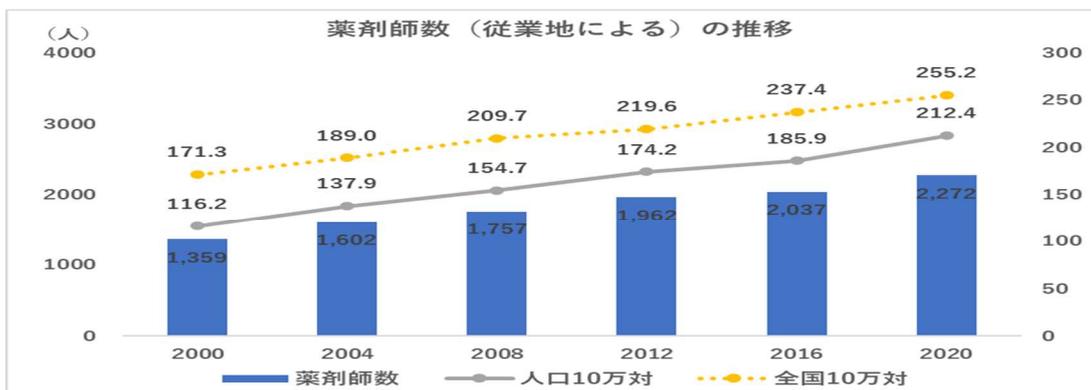
薬剤師数（従業地による）の推移

(単位：人)

区分	年次	2000	2004	2008	2012	2016	2020	
								対2000数
薬剤師数		1,359	1,602	1,757	1,962	2,037	2,272	913
人口10万対		116.2	137.9	154.7	174.2	185.9	212.4	96.2
全国10万対		171.3	189.0	209.7	219.6	237.4	255.2	83.9

(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

第2章 地域の概況



(出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

(4) 看護師・准看護師

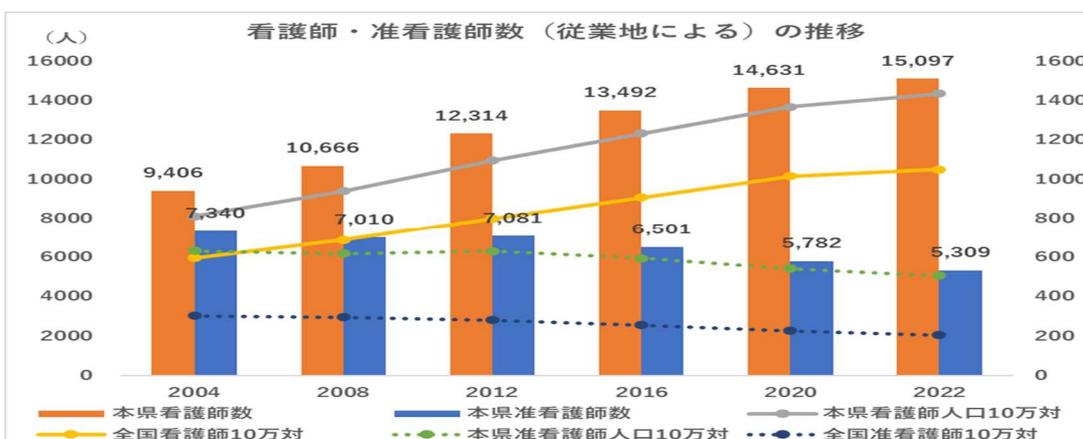
- 看護師数は、令和4年(2022年)12月末現在では15,097人で、平成16年(2004年)時の9,406人と比較し、5,691人増加しています。
- 人口10万人当たりの看護師数は、令和4年(2022年)12月末現在では1453.3人で、平成16年(2004年)時の809.5人と比較して625.8人増加しており、全国平均の1049.8人を上回っています。
- 准看護師数は、令和4年(2022年)12月末現在では5,309人で、平成16年(2004年)時の7,340人と比較し、2,031人減少しています。
- 人口10万人当たりの准看護師数は、令和4年(2022年)12月末現在では504.8人で、平成16年(2004年)時の631.7人と比較して126.9人減少していますが、全国平均の203.5人を上回っています。

看護師・准看護師数（従業地による）の推移

(単位：人)

年次	2004	2008	2012	2016	2020	2022	対2004数
看護師数	9,406	10,666	12,314	13,492	14,631	15,097	5,691
人口10万対	809.5	938.9	1,093.6	1,231.0	1,367.9	1,435.3	625.8
全国10万対	595.4	687.0	796.6	905.5	1,015.4	1,049.8	454.4
准看護師数	7,340	7,010	7,081	6,501	5,782	5,309	-2,031
人口10万対	631.7	617.1	628.9	593.2	540.6	504.8	-126.9
全国10万対	302.3	293.7	280.6	254.6	225.6	203.5	-98.8

(出典：厚生労働省「衛生行政報告例」)



(出典：厚生労働省「衛生行政報告例」)

